



名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2023年度版)



北千種キャンパス 看板下の植込に建築都市領域の大野 暁彦准教授と学生が地域在来種の苗木を植えました



活動の概要	<p>ランドスケープ(景観)設計を専門分野にしている建築都市領域の大野暁彦准教授と研究室の学生さんが、古出来通の歩道沿いに設置されている本学北千種キャンパスの看板下花壇に、地域在来種の草花を植栽しました。</p> <p>植栽した草花の多くは、現在ではほとんど都市部では見られなくなりましたが、元々は濃尾平野の多くの緑地で普通に見られた草花です。できるだけこの地域の遺伝子型を保全するため産地にこだわり、</p> <p>岐阜県産 ジャノヒゲ、ナキリスゲ、ヤブコウジ 愛知県産 ノコンギク、キンミズヒキ</p> <p>など、特別に栽培された苗を選出して植栽しています。</p> <p>これらの取り組みは、本学全体で取り組んでいるSDGsのうち、SDG15「陸の豊かさも守ろう」に関する取り組みとして、大学教育の一つとしてだけでなく、地域に発信し地域の自然環境へ貢献する活動として展開しています。</p>
活動の時期	2022年以降
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/news/20220808/

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア島嶼域の生物地理区境界線の検証

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア 島嶼域の生物地理区境界線の検証



研究開始時の研究の概要	<p>名古屋市立大学生物多様性研究センターの熊澤教授（理学研究科）が代表となって進めている本研究では、ワラセアと呼ばれる動物相の遷移帯を中心に、インドネシア島嶼域の淡水魚と汽水・沿岸魚を野外採集し、分類学的検討を行うとともに、最新の分子的アプローチを用いた系統・集団解析を行う。その結果に基づき、塩水中の分散特性が異なる魚類の種（集団）分布や系統地理構造を古環境学の背景と関連づけて理解し、生物地理区境界線との関わりを高精度に検証する。インドネシア島嶼域では、近年の環境破壊で生態系の持続性に深刻な懸念が持たれている。本研究は、生物地理学を格段に発展させるのみならず、東南アジア諸国で生物多様性の保全と生物資源の持続的利用を図るうえで必要な研究人材とそのネットワークを育てることに繋がる。</p>
研究実績の概要	<p>2022年度の前半は新型コロナウイルス感染症の影響で、日本側研究者がインドネシアを訪問して現地調査を実施することが難しかった。そこでインドネシアおよびタイの研究協力者による魚類サンプル採集を複数回実施した。インドネシアでは、2022年の6月から8月に主にスマトラ島の広範な地点で、2023年の1月から3月にジャワ島・スマトラ島などいくつかの島でサンプリングを実施した。また、3月には研究協力者のMr. Kholil（研究代表者の研究室に所属する国費留学生）がボルネオ島に行き、サンプリングを行った。大小河川の河口域や湖沼を中心に、ハゼ目のオクスデルクス科などの科を構成する約20種の淡水・汽水魚類標本を採集できた。また、スズキ目の様々な科に属する約15種を中心とした沿岸魚類の標本も収集できた。採集されたサンプルがカバーする魚種数は前年度より少ないが、これは研究する対象魚を絞り込んでサンプリングを行ったためである。</p> <p>これらの標本の一部は、インドネシア政府またはタイ政府の許可を得て、研究代表者の研究室に提供され、国際共同研究体制のもとで系統分類学的研究を行なった。組織標本については、そこからDNAデータを抽出して、ミトコンドリアDNAにコードされるシトクロムオキシダーゼサブユニットI遺伝子の塩基配列を決定し、分子系統解析を実施した。ホルマリン固定された体標本については、形態学的な分析を行い、現行の分類学的情報による種同定と分子情報に基づく系統関係の対比を行った。ハゼ目オクスデルクス科やスズキ目ツバメノシロ科などの分類群において、従来の分類学的研究では認識されていなかった新種の存在が示唆されており、それについて詳しく分子系統学的・形態学的解析を行った。</p> <p>本研究課題の国際共同研究チームのメンバー間で研究成果を共有するために、zoomを利用した科学セミナーを7月と12月に公開で実施した。</p>
研究代表	名古屋市立大学生物多様性研究センター 熊澤 康伯（理学研究科）
研究期間	2019年度から2024年度
関連URL	<ul style="list-style-type: none"> 淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア島嶼域の生物地理区境界線の検証 名古屋市立大学生物多様性研究センター

スマートフォン表示

PC表示

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 人文社会学部現代社会学科・社会調査実習報告書『木曽三川における地域環境教育のあり方』の刊行

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

人文社会学部現代社会学科・社会調査実習報告書『木曽三川における地域環境教育のあり方』の刊行



活動の概要

人文社会学部現代社会学科では、毎年、社会調査実習という授業を開講しています。各担当教員の指導のもと、中京圏の様々な社会問題の現状と課題について、主にフィールドワークやインタビュー調査を中心とした社会調査を行っています。東海社会学会インターラッジ発表会で報告をしており、調査経験とプレゼンテーションに力を入れた教育活動を行っています。この度、報告書『木曽三川における地域環境教育のあり方』を刊行しました。

【社会調査実習の内容】

今年度の馬渡班では木曽三川における地域環境教育の現状について、地域資料の整理・読解、現地フィールドワークや関係者への聞き取り、ボランティア活動への参加等を通して調べました。水環境と私たちの関係は切っても切り離せないものであるにもかかわらず、実際には水環境とどのように付き合っていけば良いかわからない現状があります。特に学校外の社会教育の現場で、どのような内容の環境教育が行われているのか、その実態や伝え方、教育の工夫、各団体の抱える課題等を調査しました。調査に協力いただいた各務原木曽川かわまちづくり会は、産官学民が連携したかわまちづくりの実現を目指している団体です。同会は、近隣の国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センターの専門家と協力して、小学生とその保護者（親子）を対象とした「おさかな観察会」などのイベントを定期的に開催しています。子どもたちはイベントにおいて、専門家の助けも借りながら生き物に関する正しい知識を身につけることができます。しかし、単なる知識の習得に終わることなく、五感を通じて直接自然を感じることができます。このような取り組みを通して、「地域の自然環境への愛着がわき、環境保全に関心を持てるようになる」「地元の良さを認識することによって、将来のUターン就職率を高める」「Uターンの際には「地元の良さ」を発信する立場を担えるようになる」「専門家との連携によって、研究等の将来の進路選択にもつながる」ことを目指しています。また、同会が開催する「かわまちランバイク大会」へのボランティア参加を通して、水辺空間の利用によって地域が盛り上がる様子を目の当たりにし、受講者は「まちとかわのつながり」を感じることができました。このような地元住民が担う「かわまちづくり」の活動は、子どもたちに対する地域環境教育の一環として位置づけられるでしょう。

活動の時期

2023年4月から2024年4月まで

担当教員

馬渡玲欧（人文社会学部現代社会学科講師／SDGsセンター員）

関連URL

[名古屋市立大学人文社会学部現代社会学科](#)

[東海社会学会インターラッジ発表会](#)

[人間文化研究科の馬渡玲欧講師のインタビュー記事がWebメディア『ミズテル』に掲載されました](#)

木曽三川における 地域環境教育のあり方

[2023年度・現代社会学科社会調査実習報告書]

第4分冊

名古屋市立大学人文社会学部
現代社会学科

2023年度社会調査実習報告書（馬渡班）表紙

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

キャンパスマップ

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501

名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

キャンパスマップ

田辺通キャンパス

〒467-8603

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

北千種キャンパス

〒464-0083

名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 田辺通キャンパス周辺の清掃活動を実施

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

田辺通キャンパス周辺の清掃活動を実施



活動の概要	<p>2023年6月14日、薬学部・薬学研究科の学生と教職員が中心となり、陽明学区連絡協議会、パロマ瑞穂パーク、名古屋市緑政土木局の方と協力して、田辺通キャンパス周辺の清掃活動を行いました。</p> <p>○実施場所：田辺通り沿いグラウンド横の歩道の清掃</p> <p>○参加者：29名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生：16名 ・大学院博士前期課程2年生 2名 ・薬学科6年生 5名 ・薬学科4年生 7名 ・生命薬学科4年生 2名 <p>※頭金先生の研究室（8名）、林先生の研究室（7名）、余先生の研究室（1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員：3名（薬学研究科 頭金先生、寺坂先生、柴田先生） ・事務室：4名 ・瑞穂区：4名（陽明学区連絡協議会） ・パロマ瑞穂スポーツパーク：1名 ・瑞穂土木事務所：1名 <p>回収した落ち葉は、ゴミとして出すのではなく、薬用植物園の肥料として使用するように『堆肥置き場』に集めました。</p>
活動の時期	2023年6月



スマートフォン表示

PC表示

医学部	医学研究科
看護学研究科	

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科

[人文社会学部](#)

[人間文化研究科](#)

総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

[総合生命理学部](#)

[データサイエンス研究科](#)

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 環境デーなごや2023パートナーシップ事業として地域美化活動を実施

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

環境デーなごや2023パートナーシップ事業として地域 美化活動を実施



活動の概要	環境デーなごや2023パートナーシップ事業の一環として、2023年6月9日金曜日に桜山（川澄）キャンバス周辺の地域美化活動を行いました。当日は、SDGsセンターの林センター長を含む教職員と学生合わせて12名が参加し、桜山（川澄）キャンバス周辺の清掃を行いました。
活動の時期	2023年6月
関連URL	環境デーなごや地域行事Webサイト



スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

キャンスマップ

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

キャンスマップ

田辺通キャンパス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンスマップ

キャンスマップ

北千種キャンパス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンスマップ

キャンスマップ

環境マネジメントシステム

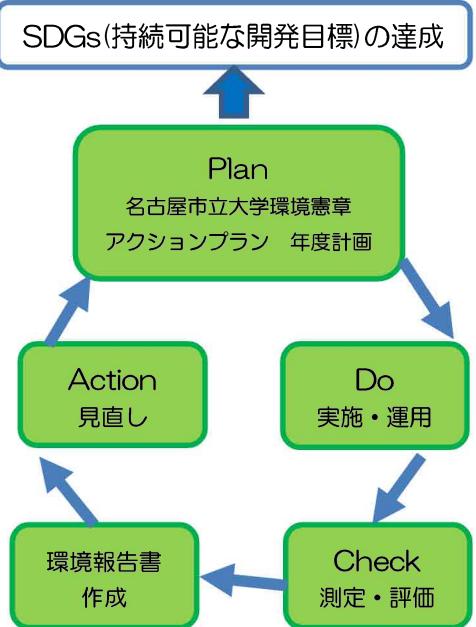
組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」とい、このための事業所内の体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本学では、環境憲章で定めた基本方針の実現のために、基本方針の各項目について3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標を定めています。

右図に示すP D C Aサイクルを名古屋市立大学の環境マネジメントシステムの体系と定め、同システムの継続的改善により、さらなる環境への取り組みを進めていきます。

これらの計画達成を通じて、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組んでいます。

SDGs(持続可能な開発目標)の達成



アクションプランの主な取組状況

1. 教育への取組み



全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目23科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにしています。

学部専門教育科目においては、授業科目「ESD概論」では、気候変動やごみ問題をはじめとする環境問題が、自らの生活と密接に結びついてることに気づき、どうしたら持続可能な地球環境の保全に取り組めるのかを身近な諸課題に結び付けて具体的に検討し、実行しています。

また、大学院教育においても、環境問題について様々な学問的手法による分析、現地調査などによる研究を取り入れた授業科目が提供されています。「建築設備設計特論」では、日本を含む世界のエネルギー消費事情と政策動向を概観し、地球環境と建築とのかかわりを知ることで、未来を担う一人ひとりがその責務を認知し行動

教育区分	授業科目名（令和4年度開講実績）
教養教育 (23科目)	ESDと地域の環境、環境行動学と情報リテラシー、環境と社会・制度・政治・経済、環境科学、動物とヒトの進化多様性、都市と自然、行動生態学、植物とバイオテクノロジー、エネルギーのサイエンス、地球史入門、地域生態学、社会と医学、教養として知っておきたい様々な病気、次世代エネルギーワークショップ、植物の多様性と環境、健康・スポーツ科学、ヘルシーライフ、人と法と医療、SDGsを考える：医療系、SDGsを考える：自然系、SDGsを考える：数理情報系、SDGsを考える：社会科学系、持続可能な社会と私たち、人間の行動・心理と建築
専門教育 (24科目)	データサイエンス入門、行動科学、社会医学講義（予防医学基礎）、基礎自主研修（環境労働衛生学分野選択）、社会医学講義（予防医学応用）、MD-PhD 前期コース、衛生化学、環境衛生学、公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ、環境経済学Ⅱ、環境資源経済論、ESD入門、ESD概論、環境教育論、保育内容演習（環境）、ESD演習（海外スタディツア）、文系のための環境理学入門、ランドスケープ論、建築環境心理論、建築環境工学、建築環境計画、グローバルヘルス、小児看護学概論

に移すことをを目指しており、この授業を通して、建築設計のなかで実現できる省エネ・環境負荷手法について理解でき、建築設計者として取り組める環境配慮策を身につけます。

大学院教育 (19科目)

予防・社会医学講義Ⅰ、環境労働衛生学（講義・演習・実験実習）、環境労働安全管理学概論Ⅰ・Ⅱ（Introduction of environmental health and safety management I・II）、環境健康安全学課題解決アクティブラーニング（Environmental and Phamaco-medical Science Active Learning）、社会医学系基礎、Basic Medical Science 1・2、化学物質と環境、薬用資源学特論、衛生化学特論、レギュラトリーサイエンス、グリーンケミストリー、環境資源経済論、ESD研究A、ランドスケープ特論、建築環境心理特論、建築環境計画特論、建築設備設計特論、成育保健看護学、理論看護学

2. 学生活動への支援



学友会や各キャンパスの自治会の企画により、4キャンパスにおいて「開学記念日一斉清掃」が実施され、課外活動団体や有志の学生が参加しました。

また、国際的な共同研究・支援活動として、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上や生物多様性を目的とした国連食糧農業機関（FAO）でのインターンシップに関する協定を締結しています。

3. 生物多様性の保全に関する学術研究の推進



理学研究科では、陸の豊かさを守るために（SDGs目標15）、名古屋周辺に生息するバッタ類や貝類などの標本を収集するとともに、絶滅のおそれのあるハヤブサ類についての研究成果を国際共著論文にまとめて公表しました。また、海の豊かさを守るために（SDGs目標14）、インドネシアやタイの魚類に関する標本収集とDNA解析も行いました。

さらに、理学研究科教員が名古屋市内の生物多様性保全活動に関わる市民団体（なごや生物多様性保全活動協議会）と連携協働し、名古屋圏に固有の植物の遺伝的位置づけを解明する共同研究を実施しました。これらの研究成果は、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと共に「なごや生物多様性シンポジウム 2024～みんなでつなごう生物多様性の未来～」で発表し、地域還元しました。

また、環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど、研究支援を行いました。

4. 地域社会等との連携



【生涯学習機会の提供等】

本学 SDGs センターは令和 5 年 12 月 20 日に、「～ともに考える教育の未来～」と題したシンポジウムや、Human Feedback プロジェクト 2024 として講演会「動物とヒトとの共存-そのために私たちに何が出来るか？」を「世界野生生物の日」である令和 6 年 3 月 3 日に、開催しました。

また、理学研究科附属生物多様性研究センターは、名古屋市環境局なごや生物多様性センターとの共催のもと、本学 SDGs センターの協力イベントである「なごや生物多様性シンポジウム 2024～みんなでつなごう生物多様性の未来～」を、令和 6 年 3 月 24 日に実施しました。

【環境に関する各種イベントへの参加等】

○令和 5 年 9 月 22 日～24 日 「なごや生きもの一斉調査 2023 ハエトリグモ編」

理学研究科附属生物多様性研究センターのスタッフ 2 名が調査の地点リーダーを務めるとともに、理学研究科・総合生命理学部の学生 7 名が一般調査員として参加しました。

○令和 5 年 10 月 28 日 「なごや生物多様性センターまつり 2023」

理学研究科附属生物多様性研究センターが、「なごやのバッタ類の遺伝的多様性」をテーマとしたブースを市民団体と共同で出展し、名古屋市内に生息するバッタ類の絶滅危険性について多数の実物標本とともに紹介しました。

○令和 5 年 11 月 10 日 名古屋市消費生活フェア「なごやエシカルフェア☆2023」

名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業に、人文社会学部の学生がゼミ活動として連携協力し、レンゴー株式会社豊橋工場との連携によって作成した段ボール製のリサイクルボックスの展示等を行いました。

【SDGs に関するイベントの参加・開催】

SDGs に関する各種イベントにパネルを展示し、環境を含めた本学の SDGs に関する取り組みを紹介しました。

○令和 5 年 10 月 5 日～7 日 「SDGs AICHI EXPO 2023」

○令和 5 年 8 月 23 日 「SDGs 将来世代創造フォーラム 2023」

○令和 5 年 8 月 27 日 「中日 SDGs フェア」

○令和 5 年 11 月 2 日 「SDGs まつり」

中日 SDGs フェアの様子



SDGs 将来世代創造フォーラム 2023 の様子

